

■脇本遺跡報道発表資料

2007年12月6日

奈良県立橿原考古学研究所

所在地：桜井市脇本・慈恩寺

調査面積：約650㎡

調査期間：平成19年5月9日～同年11月22日

主な遺構：1区…竪穴式建物9棟(古墳時代初頭を中心とする)

2区…土坑、溝、川など(弥生時代後期後半～古墳時代初頭)

主な遺物：1区…銅鐸片(突線鈕3～5式)、銅滓、青銅器(銅鏃?など)、土製鋳型外枠、鉄器(鉄鏃など)、砥石、管玉、勾玉、ガラス玉、水銀朱付着磨石、土器など(ここに挙げた遺物のほとんどは古墳時代初頭廃絶の竪穴式建物4周辺から出土。それ以外の遺構からは主に土器が出土。)

2区…多量の土器

調査担当者：奈良県立橿原考古学研究所 調査第2課主任研究員 青柳泰介
同 技師 北井利幸

調査原因：国道165号線拡幅工事

原因者：奈良県桜井土木事務所

特記事項：弥生時代後期後半～古墳時代前期前半にかけての集落を確認し、従来よりも脇本遺跡の範囲が西へ拡大する可能性。
古墳時代初頭に廃棄された銅鐸片の出土および青銅器生産等の可能性。

1. はじめに

脇本遺跡は、三輪山の南麓を東へ伸びる初瀬谷の入口に位置し、奈良盆地から榛原、名張を抜けて東国へ抜ける交通の要衝でもあり、古くから雄略大王の「泊瀬朝倉宮」(古墳時代中期後半)の有力推定地となっている、縄文時代から飛鳥時代にかけての複合遺跡である。

2. 脇本遺跡の範囲

奈良県立橿原考古学研究所では、3年前から国道165号線拡幅工事に伴い、国道沿いを調査してきた。従来は春日神社周辺の一段高いところに弥生～古墳時代の遺跡が展開すると考えられてきたが、この一連の調査で国道沿いの一段低いところにも同時代の遺構が広がることが確実となり、従来は分けられていた脇本遺跡(15A-1)と脇本西遺跡(15A-2)が同一の遺跡である可能性がでてきた。そこで、今後はこの二つの遺跡を脇本遺跡と呼ぶことにする。なお、その遺跡の北端は春日神社の所在する山裾、南端は国道直下、西端は今回の調査の2区西端になる可能性が高いが、東端については黒崎遺跡との間の谷になるか、黒崎遺跡とも同一の遺跡になるかは判然としない。縄文時代および古墳時代中期～飛鳥時代に限定すれば、脇本遺跡と黒

崎遺跡とは同一の遺跡になる可能性もあろう。

3. 調査の概要

2006年の調査区の西方約35mの字ツクシ原周辺の調査区(約500㎡)を1区、さらに西方約40mの字西台周辺の調査区(約150㎡)を2区とし、上記期間に調査を実施した。

1・2区での主要な遺構、遺物は上記したが、特筆すべきは、1区の高墳時代初頭に廃絶した竪穴式建物4周辺において、青銅器生産関連遺物・銅鐸片が出土したことである。また、2区では居住関連遺構を見いだせず、集落の西端であると推測される。

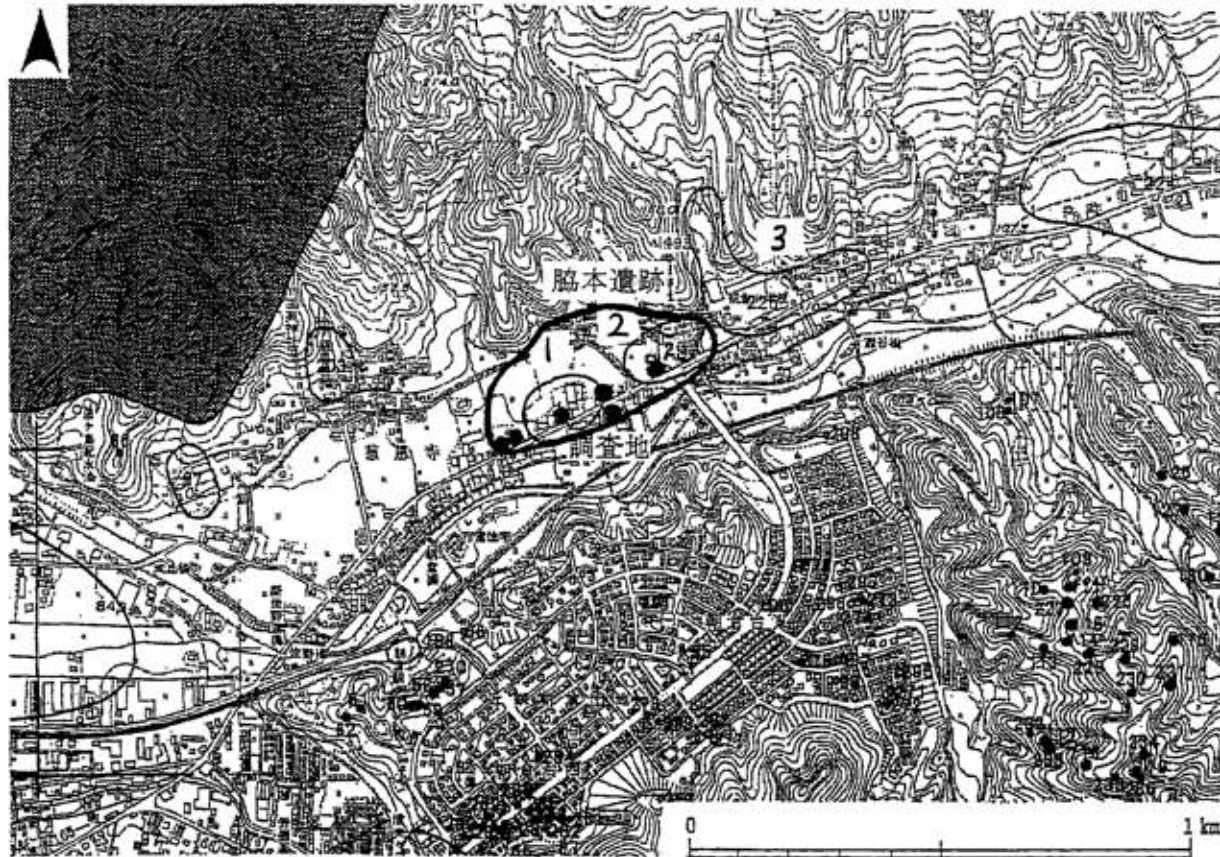
なお、今回の調査では「泊瀬朝倉宮」(古墳時代中期後半)関連の確実な遺構・遺物は確認できなかった。

3. まとめ

- ①4年間にわたる一連の調査で、脇本遺跡の範囲が広がり、脇本西遺跡と一体であることが明らかとなった。
- ②今回の調査の最大の成果は、古墳時代初頭前後において、この遺跡内で青銅器生産をはじめとする各種生産を行っていた可能性が高いとわかったことである。
- ③関連遺物のなかに、銅鐸片が出土したことも注目される。ここで銅鐸を使用していたかどうかは特定できなかったが、少なくとも銅滓や土製鋳型外枠などの青銅器生産関連遺物が周辺で多数出土していること、いずれも細片で接合関係なども不明であることなどから、現時点では、それらは鋳造に使われる予定だった原料であったと考えておきたい。なお、その場合もそれらの破片をどこから入手したかは特定できなかった。また、何を鋳造したのかも特定できなかった。

従来は、脇本遺跡に関しては、「泊瀬朝倉宮」との関わりで論じられる場合が多かったが、今後は古墳時代の幕開けに関しても、この遺跡がどのような役割を演じたか議論していかなければならなくなるだろう。特に、集落の消長を考慮にいれると、該期の最大級の集落である、三輪山西麓の纏向遺跡との関係が浮上してくる。また、脇本遺跡は立地的に拠点集落とはいえない可能性があるため、なぜこの集落で青銅器生産などを行わねばならなかったのか、またどうして銅鐸を入手できたのか、考えなければならない課題は多い。

参考までに、この遺跡も含めて奈良県内での銅鐸出土件数は16例、そのうち破片銅鐸は3例(唐古・鍵、纏向)、土製鋳型外枠は4例(唐古・鍵、新沢一町、大福)である。



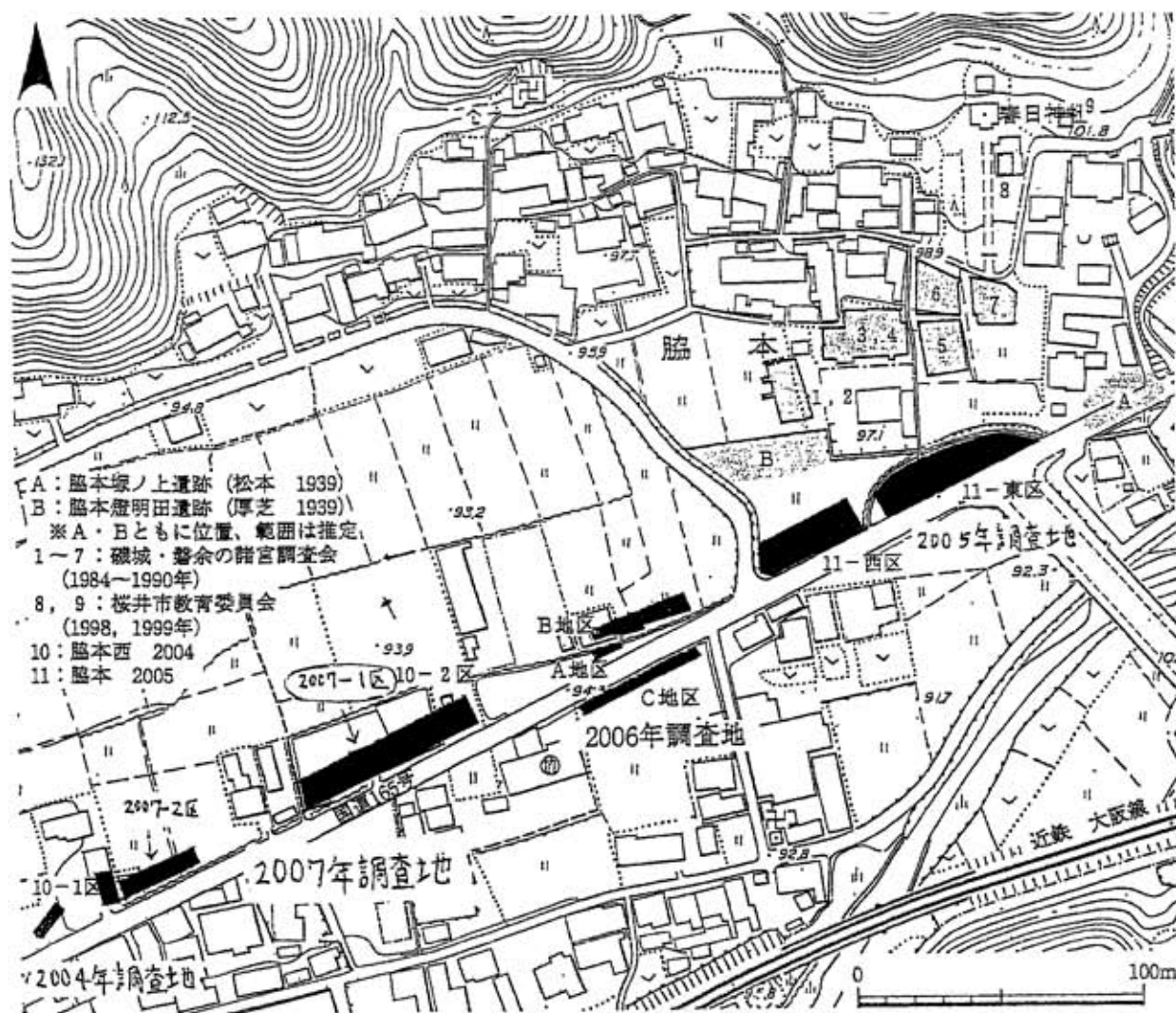
調査位置図 (1/15,000) 奈良県遺跡地図 14B東部-15A西部

1: 脇本西

●: 国道165号線沿幅員関連調査地

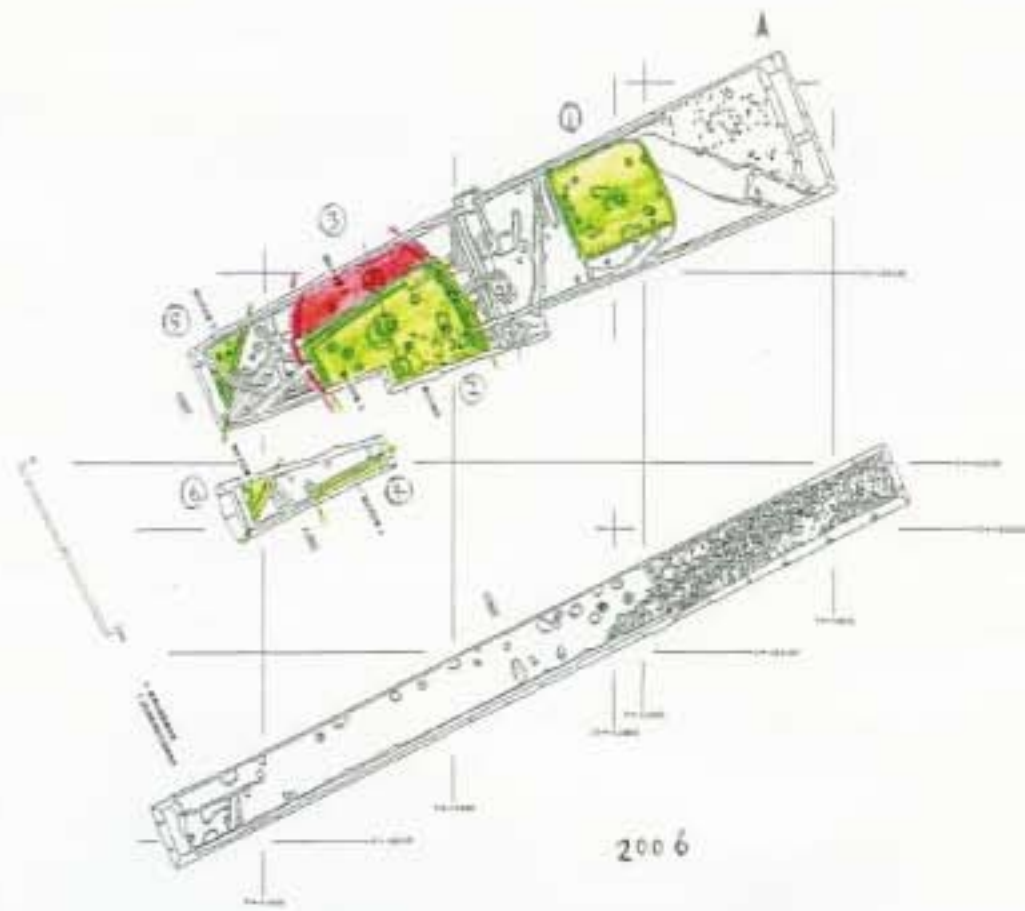
2: 脇本

3: 黒山崎(郡倉)

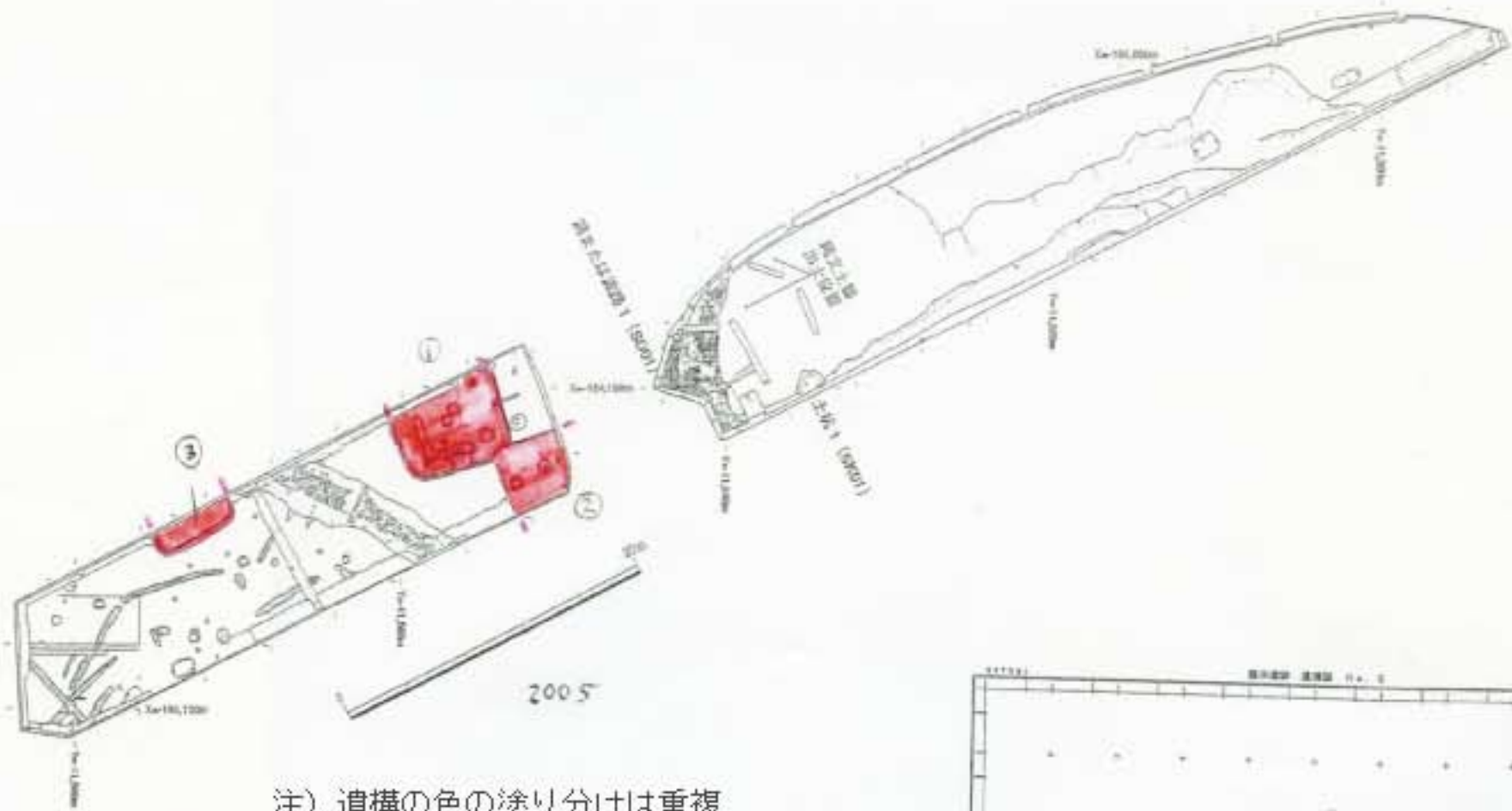


- A: 脇本塚ノ上遺跡 (松本 1939)
- B: 脇本燈明田遺跡 (厚芝 1939)
- ※ A・Bともに位置、範囲は推定
- 1-7: 磯城・磐余の諸宮調査会 (1984-1990年)
- 8, 9: 桜井市教育委員会 (1998, 1999年)
- 10: 脇本西 2004
- 11: 脇本 2005

調査地と脇本遺跡の既往調査地 (1/2,500)

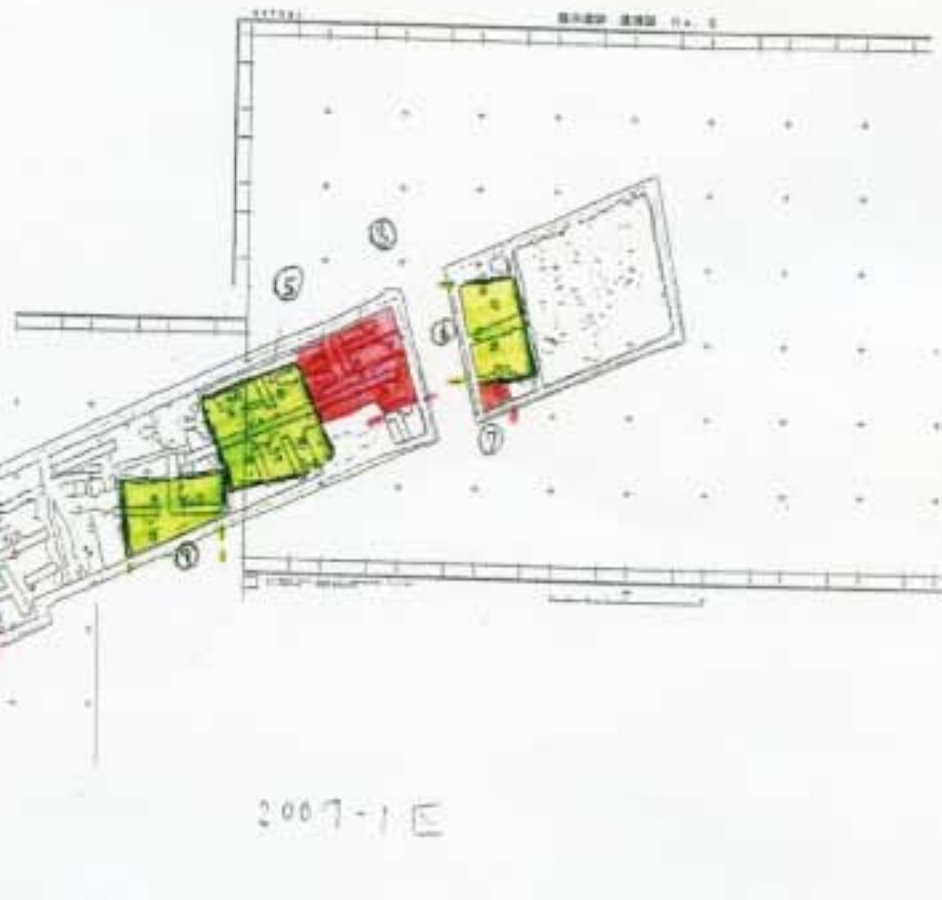


2006



2005

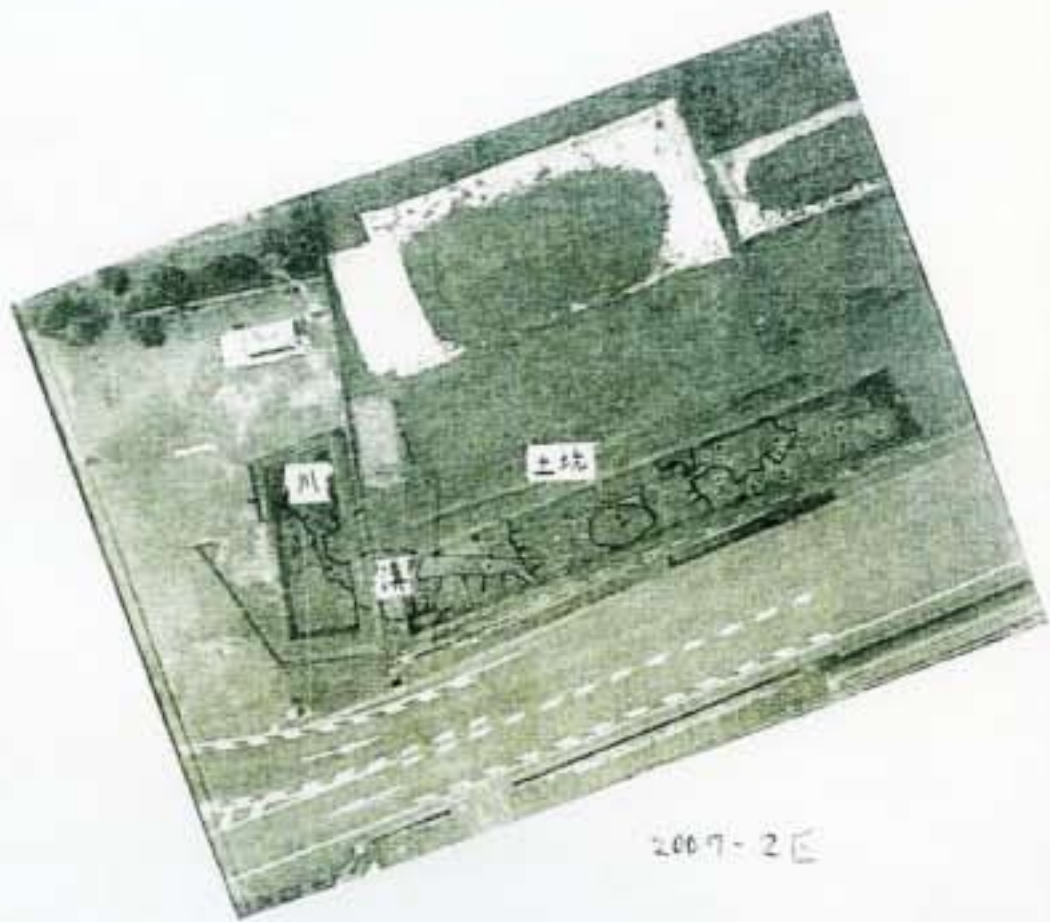
注) 遺構の色の塗り分けは重複関係を明示するためのもので、時期変遷とは関係ありません。



2007-1区



2007-1区



2007-2区

国道165号線抗中福間遺跡 (S=1400) <上が北>
 北から一 聖方社遺跡